

平成10年度国際地域研究所共同研究テーマ

## 21世紀の世界システムと民族問題

- ①人の移動（移民・難民・外国人労働者の問題） ・畑中・滝澤  
②地域紛争 ・小川（敏）  
③多民族国家 ・峯  
計4名

課 題	所 属	氏 名
人の移動	国際文化学科	畑中 幸子
人の移動	国際関係学科	滝澤美佐子
地域紛争	国際関係学科	小川 敏子
多民族国家	国際関係学科	峯 陽一

### 平成10年度国際地域研究所活動状況

#### 〔第1回研究会〕

5月27日（水）13：30～16：30

- ①大量難民の時代－国際人道援助活動の変容と国際法制度の課題

発表者 滝澤美佐子

- ②冷戦後の地域紛争へのアメリカの対応 発表者 小川 敏子

出席者（川端，畑中，高山，堀越，佐々木，角田，馬橋，小川，  
田中，藤井，滝澤，原田）

#### 〔第2回研究会〕

6月5日（金）14：00～15：00

テーマ 東南アジアの発展と熱帯アフリカの停滞

－歴史的経験の比較研究

講師 レナード・トンプソン博士（エール大学名誉教授）

リン・ベラト博士（エール大学）

講師の来日は、笹川平和財団の資金助成に依った。

出席者（吉田，小川，峯，滝澤，原田，西川＝笹川平和財団，大学院生5名）

\*国際地域研究所は、平成8年度からの共同研究「21世紀の世界システムと民族問題」の研究成果を共著として刊行することになった。そして今年度の国際地域研究所の主な活動として、昨年度までの共同研究員等を含めて、研究所メンバーが各々の研究分担に基づいて、共著のための原稿執筆に専念した。共著の執筆テーマは次のとおりである。

畑中 幸子「難民－その状況と変化」

滝澤美佐子「大量難民への国際的対応－庇護の限界と『一時的保護』の可能性」

田中 高「武力紛争を平和的に解決するための試み－和解と真相究明，免責の役割について」

峯 陽一「多人種・多民族国家の民主主義－アジア・アフリカにおける多極共存型統治論の系譜」

堀越 智「北アイルランド和平合意の歴史的分析」

菅 英輝「ポスト冷戦の世界と地域紛争－『脆弱な国家』と日米安保体制」

小川 敏子「冷戦後の地域紛争への米国の対応－旧ユーゴ紛争・ソマリア紛争を中心とした事例研究」

原田天津男「複合的グローバル化－国民国家／社会の解体と再編」

\*国際地域研究所は、立命館大学国際地域研究所との共催シンポジウムを平成10年12月6日（日）に名古屋市内で実施した（シンポジウムの詳細なプログラムは別掲）。シンポジウムのテーマは、「グローバリゼーションと発展途上国－21世紀への展望」であり、以下のような趣旨でシンポジウムを企画した。

「グローバリゼーションと呼ばれる現象は、市場メカニズムの市民社会への地球的規模での浸透として捉えられる。これは、歴史的な構造変動の現れである。ここから、文化の画一化・西洋化、資本主義の再編、ネオ・リベラル・イデオロギーの貫徹、貧富の格差の拡大、国民国家と民主主義の行き詰まり、地球市民社会の抵抗の胎動、グローバル・ローカルのダイナミズムの交錯など、さまざまな状況が生じていると言える。こうした変動から、大きな影響を受けているのが、発展途上国である。このシンポジウムでは、途上国のおかれた状況を捉え直すことで、グローバリゼーションの正確な理解を深めるとともに、今日の世界に突き付けられた課題への解答を模索したい」。

\*立命館大学国際地域研究所との共催シンポジウムのための、立命館大学側との打ち合わせ会合を2回行った（畑中、峯）。

\*立命館大学国際地域研究所との共催シンポジウムの準備、本研究所の共同研究の成果（共著）刊行準備、そして『国際研究』15号の編集のために、研究所メンバーによる数度の打ち合わせ会議を行った（畑中、小川、峯、滝澤）。